

2021年5月14日

各 位

会 社 名 リーダー電子株式会社
代表者名 代表取締役社長 長尾 行造
(JASDAQ・コード6867)
問合せ先
役職・氏名 総務部長 梶川 元靖
電 話 045-541-2121

中期経営指針の更新に関するお知らせ

当社は、2019年7月31日に公表いたしました「中期経営指針の策定に関するお知らせ」を更新いたしましたのでお知らせいたします。

当社といたしましては、事業計画の推進及び市場環境の変化に伴い、定期的に中期経営指針を更新する方針であります。

なお、「中期経営指針(21-25年度)」の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上

Leader

中期経営指針（21-25年度）

~ For the VMA Leading Company

リーダー電子株式会社

エグゼクティブ・サマリー

- コロナ禍を契機として放送関連事業の新技術導入が加速化。それに伴い新規事業創出を加速化する必要に直面。今後5年間（特に直近2年間）は集中的に研究開発投資を実施。

【新規事業領域】

- VMA (Video Management Automation) ソリューション事業
 - 自動運転支援ソリューション事業
- 新規事業領域に係る技術の取得を目的としたM&Aを積極的に推進。事業創出の加速化手段をどん欲に追及していく。
 - 25年度には連結営業利益1,500百万円（除、新たなM&Aに係る償却費）を目指す。

コロナ禍に起因する外部環境の激変

- コロナ禍を契機として、放送局等動画制作現場のリモート・オペレーション化が急速に進化する見込み。それに伴い技術的には、
 - 機器の遠隔操作を可能とするIP対応
 - クラウド対応

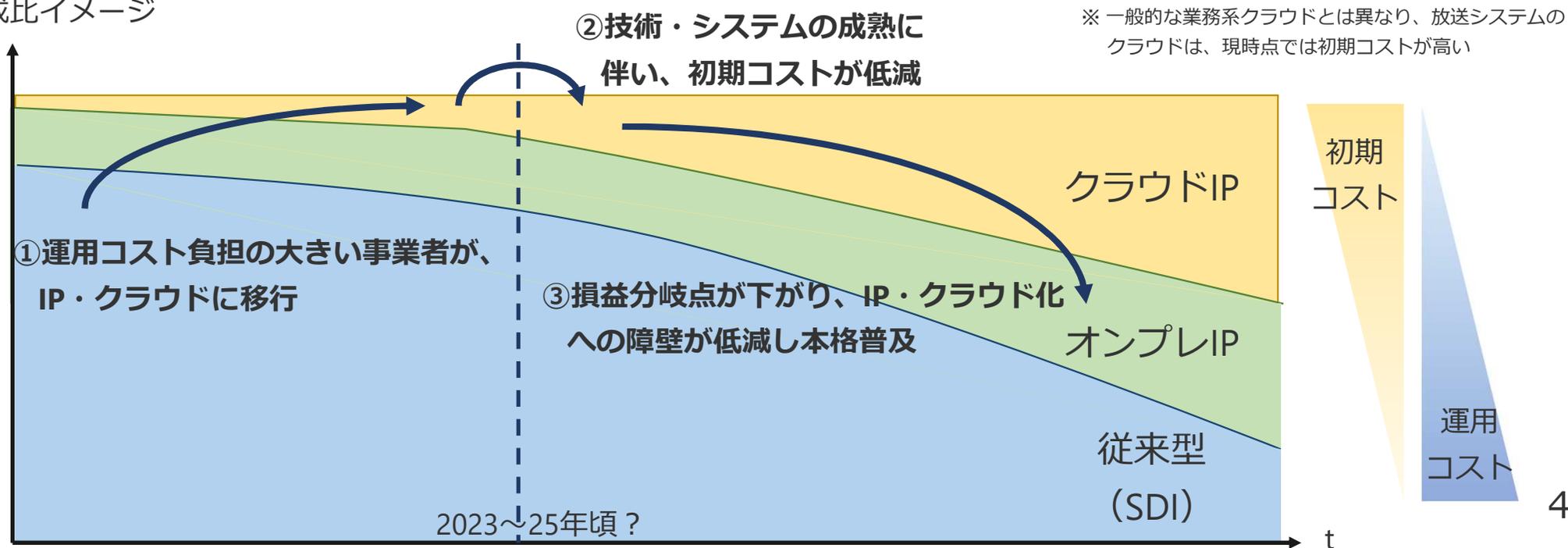
が喫緊の課題として急浮上してきている。

- また通信動画配信の急速な拡張に伴い、グローバルにおける放送関連事業の中長期的な収益性が悪化する見通し。したがって運用コストの削減も重要な経営課題化してきている。

市場環境見通し(1) 放送関連市場

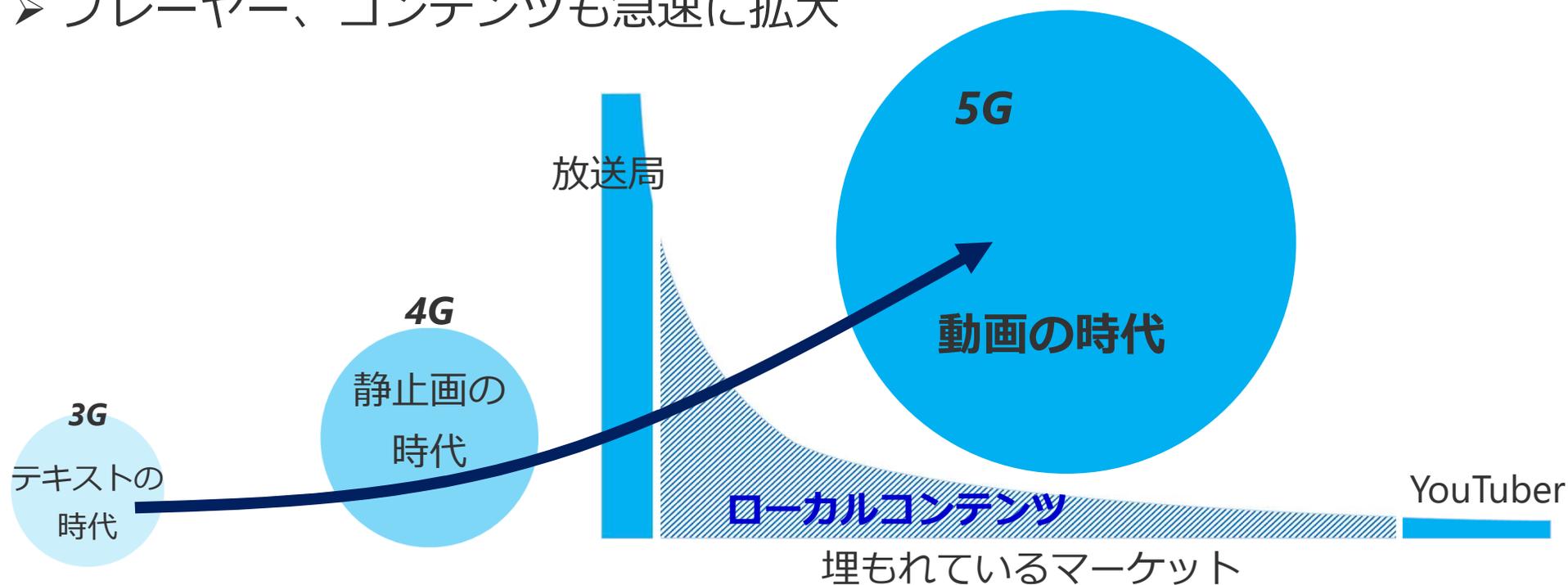
- 初期コスト負担の大きいIP化・クラウド化は、まずは運用コスト負担の大きい事業者（主に北米）から始まり、中長期的には全世界に展開していく見込み。

構成比イメージ



市場環境見通し(2) 動画コンテンツ全体

- 5Gの本格普及に伴い、動画コンテンツの量は爆発的に増大する見込み。
 - 3Gから4Gへの移行で、ネット上のコンテンツが、テキストから静止画へと進化したように、5Gの普及で静止画が動画へと進化
 - プレーヤー、コンテンツも急速に拡大



■ 当社は、

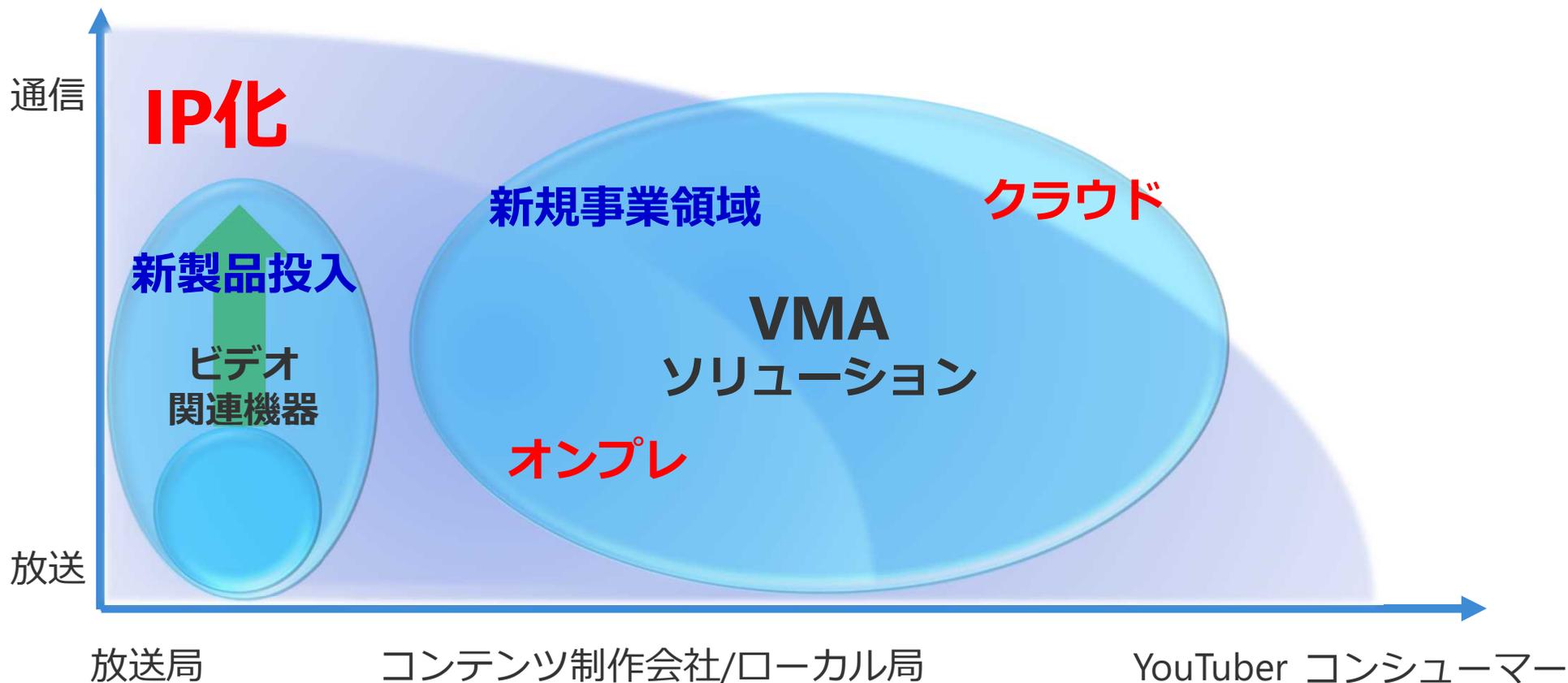
- 動画コンテンツの制作量が爆発的に増える一方、
- 低廉な制作コストに対する要求は加速度的に高まる

との認識に基づき、VMA (Video Management Automation) コンセプトを掲げ、様々な動画制作の自動化・ローコスト化ソリューションを提案・提供していく。

Leader

放送関係ビジネス成長戦略

世界の放送業界で培った技術・ノウハウをベースに、映像コンテンツソリューションビジネスを展開

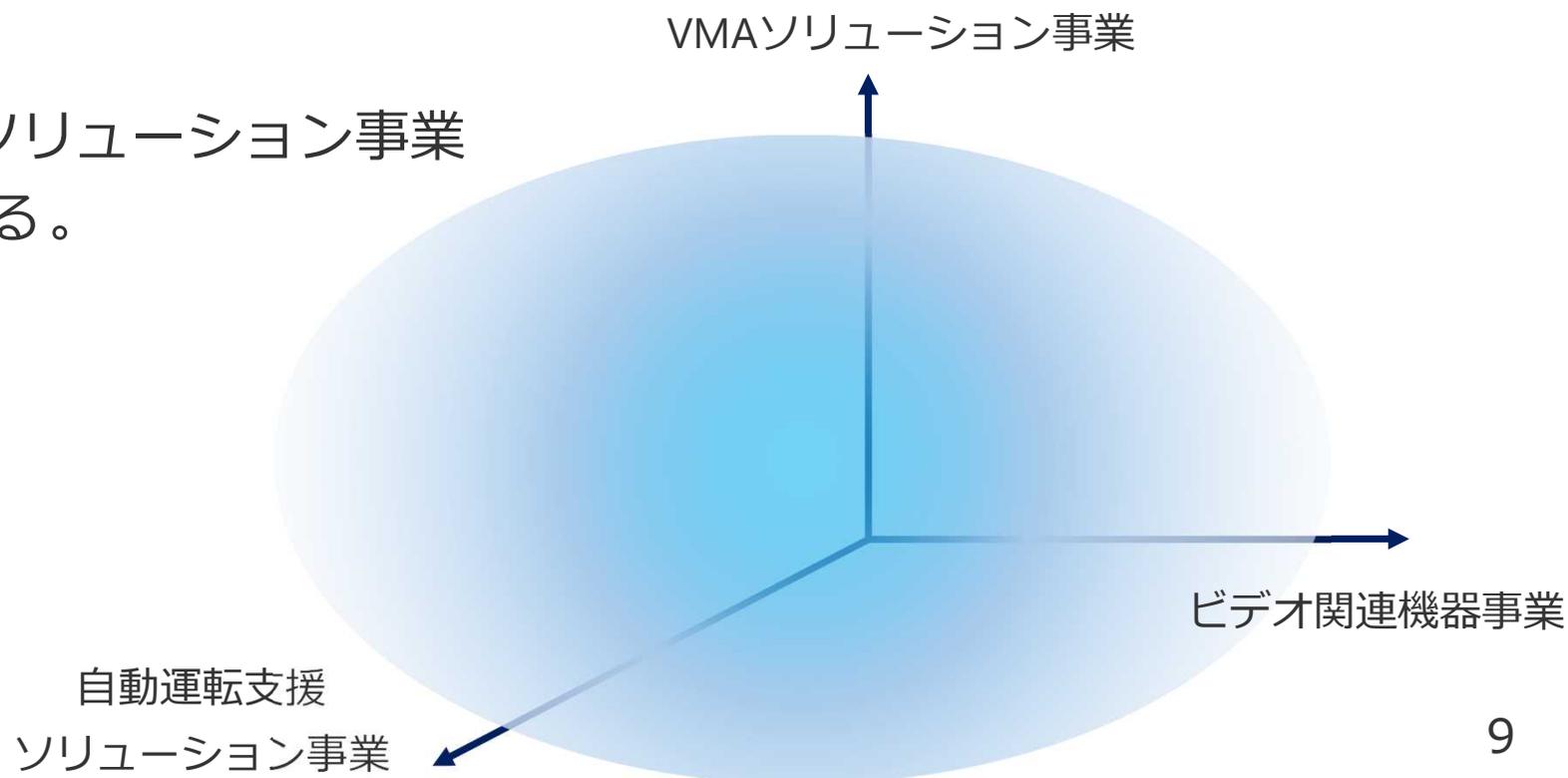


市場環境見通し(3) 自動運転支援市場

- 当該市場では、多様な光学系センサーが活用されるが、その性能評価方法や評価基準が確立されていない領域が多数存在する。
- 当社は過去に光ピックアップ・レンズの性能評価で培った技術を基に、評価方法・評価基準の提案・確立を推進する。

グループ成長の基本方針

- 本中期経営指針においては、
 - 現在の主力事業であるビデオ関連機器事業
 - VMAソリューション事業とともに、
 - 自動運転支援ソリューション事業を主軸に展開する。



Leader

ビデオ関連機器領域の運営指針

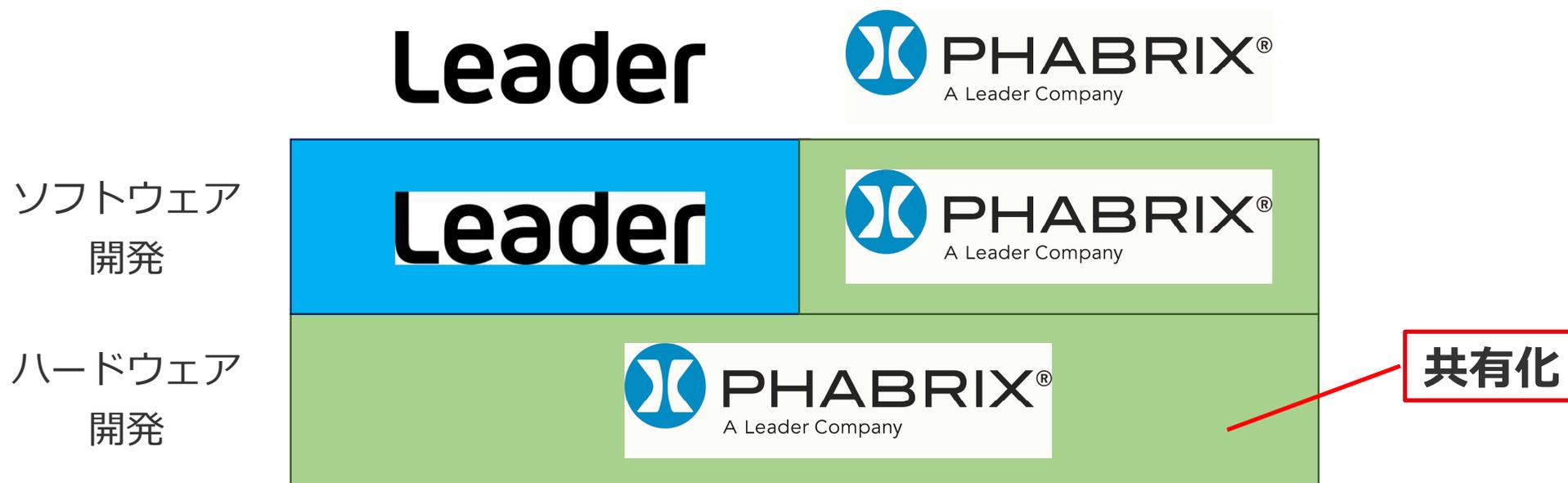
展開シナリオ(1) 営業面

- リーダー・PHABRIX両ブランドの特性を活かし、多数残存している浸透率拡大余地を取り込んでいく。

	日本	北米	欧州	中国	新興市場
コンテンツ制作	Blue	Light Blue	Orange	Blue	Light Orange
伝送監視	Blue	Light Blue	Light Orange	Blue	Light Orange
機器開発	Blue	Light Green	Light Green	Light Green	Light Orange

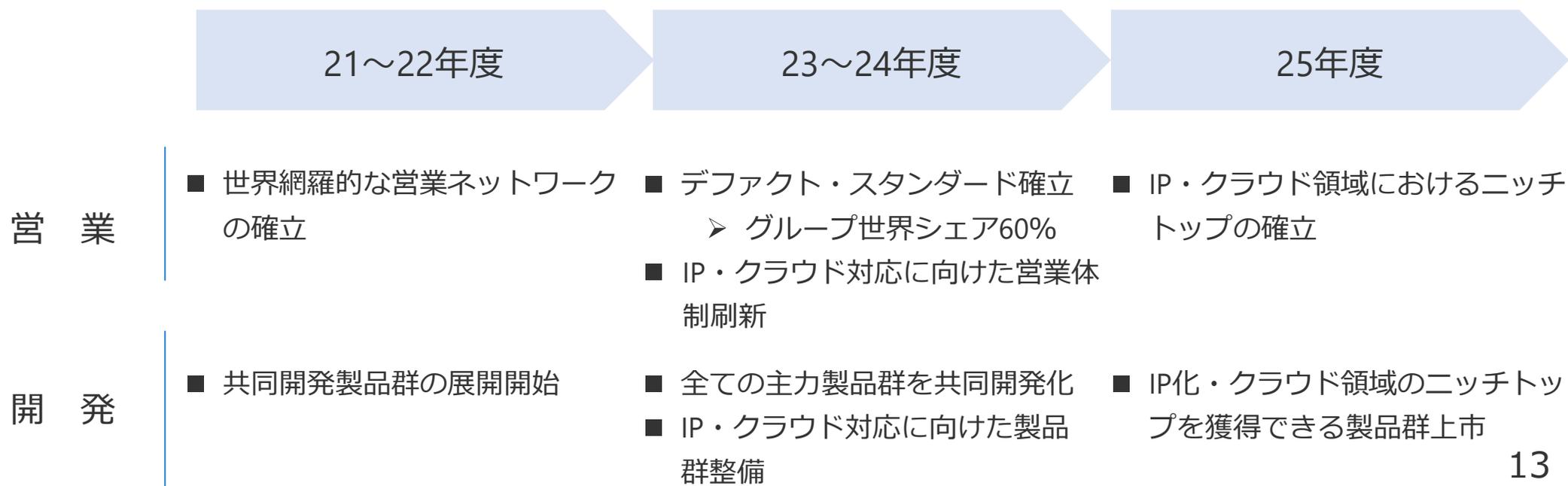
想定浸透率	0~20%	20~40%	40~60%	60%以上
リーダー・メイン	Light Blue	Blue	Dark Blue	Blue
両ブランド並立	Light Orange	Orange	Dark Orange	Dark Orange
PHABRIX・メイン	Light Green	Light Green	Light Green	Dark Green

- 2ブランド展開の強みを最大限に生かした高効率の開発を推進する。
 - ハードウェア上は、リーダー・PHABRIX両ブランドの共同開発
 - 両ブランドの特性を活かした棲み分けは、ソフトウェア上で実現



マイルストーン

- 24年度を目標にデファクト・スタンダードの地位確立を目指す。
- 同時に、その後のIP化・クラウド化の本格普及に向けた仕込みを進め、25年度以降につなげていく。

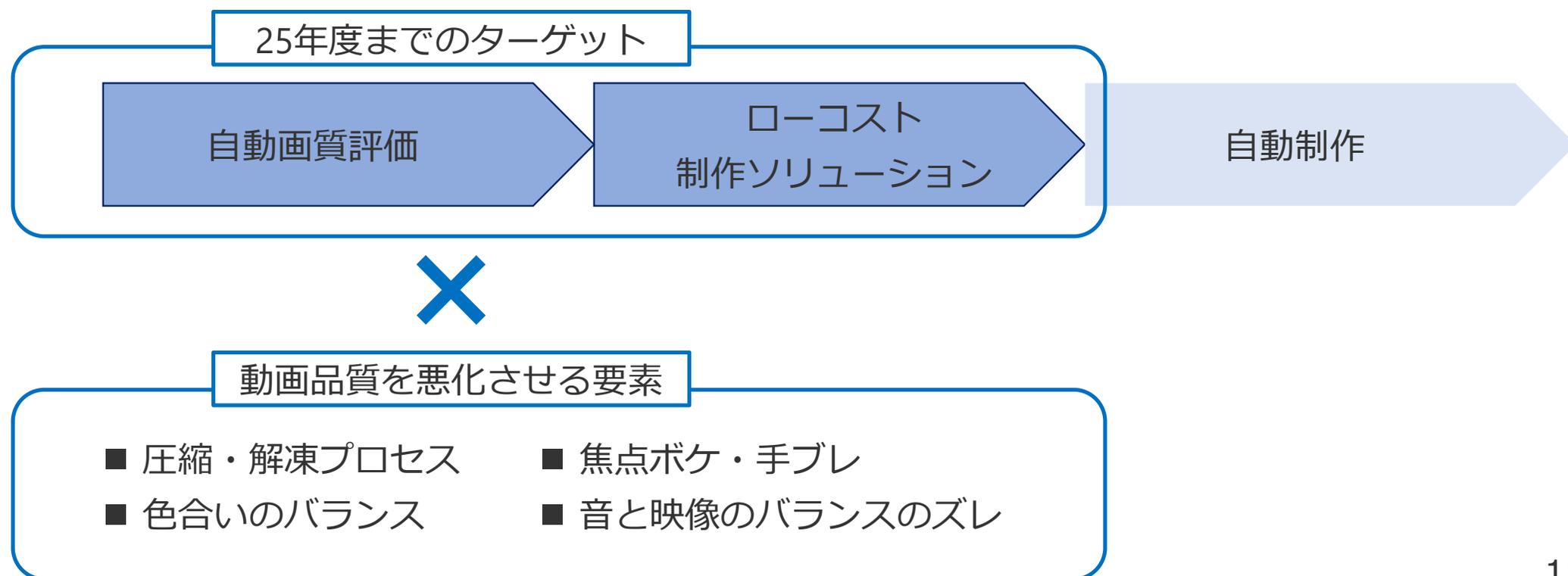


Leader

VMA領域の運営指針

展開シナリオ

- 基盤となる自動画質評価技術を開発し、その上に各種ローコスト制作ソリューションを展開していく。



マイルストーン

- 25年度を目標に、自動画質評価技術のデファクト化と当該両機の累積収支の黒字化を目指す。

21～22年度

- 自動画質評価の事業化

23～24年度

- 自動画質評価技術のデファクト・スタンダードの地位固め
- ローコスト制作ソリューションの事業化

25年度

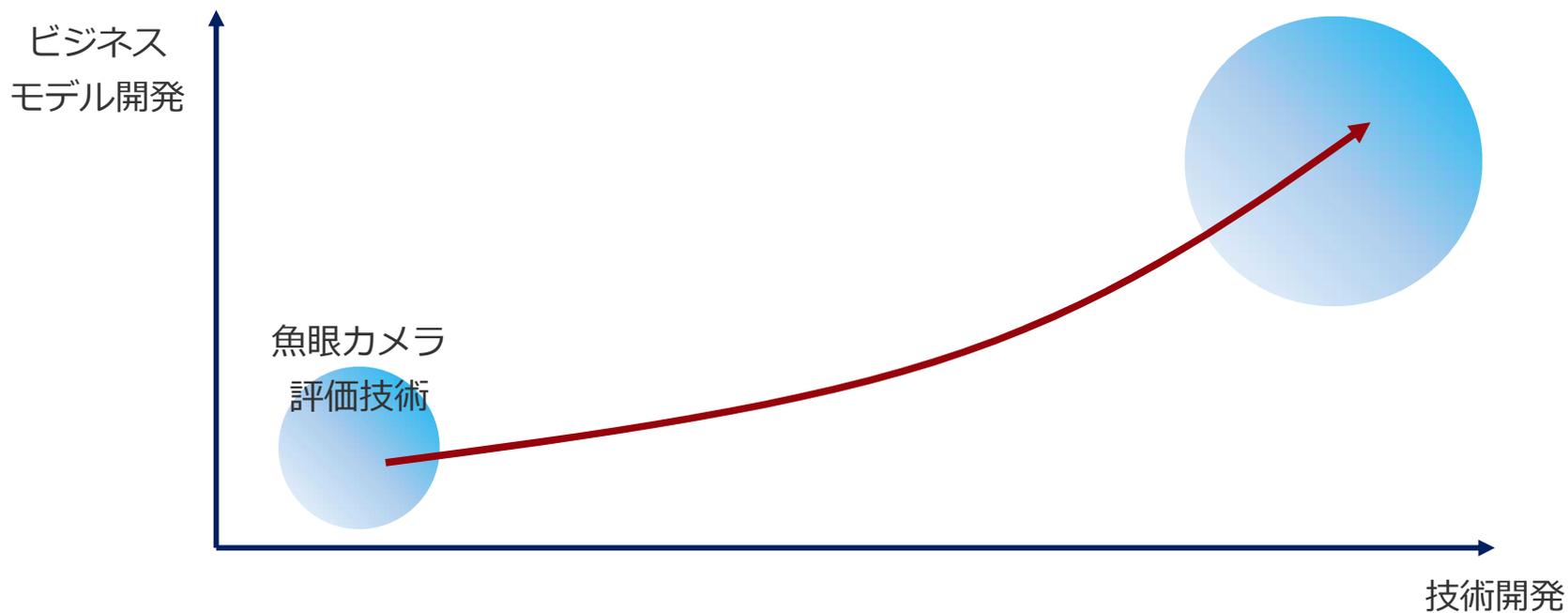
- 自動画質評価技術のデファクト・スタンダード確立
- 多様なローコスト制作ソリューションの提供開始
- 自動制作の事業シナリオ構築
- 累積収支の黒字化

Leader

自動運転支援領域の運営指針

展開シナリオ

- 自動運転支援の大きな課題であった魚眼カメラの評価技術の開発に成功。これを皮切りに、様々な技術を行うとともに、収益化の方法も開発していく。



マイルストーン

- 今後さらに増加が見込まれる自動運転支援における光学的課題に対してソリューションを提供し、当該市場において、「常に頼られる」地位の確立を目指す。

21～22年度

- 魚眼カメラ評価技術の事業化

- 技術開発シナリオの策定

23～25年度

- 複数の評価技術の事業化

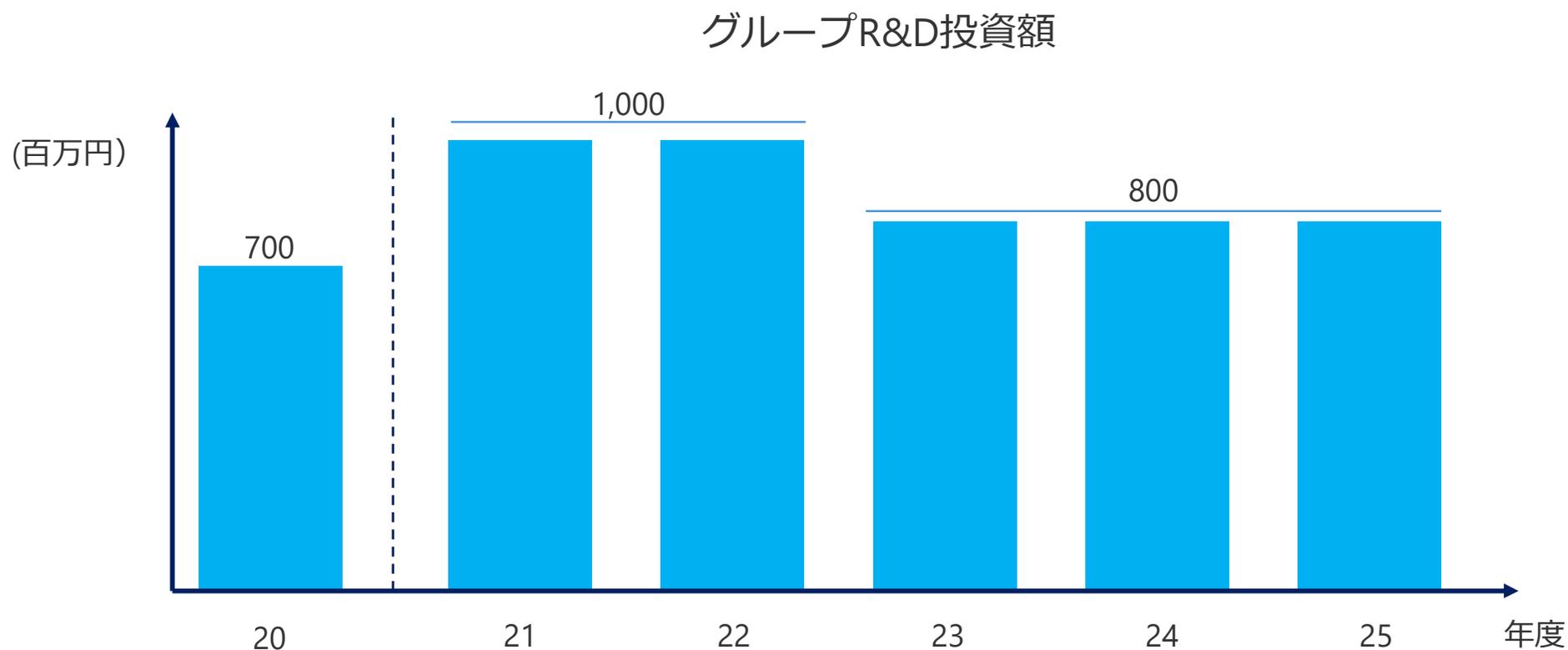
- 当該市場における地位の確立

Leader

全社經營指針

R&D指針

- 激動の環境変化に迅速に対応すべく、R&D投資を加速化する。
特に 21~22年度は、集中的に投資を進める。

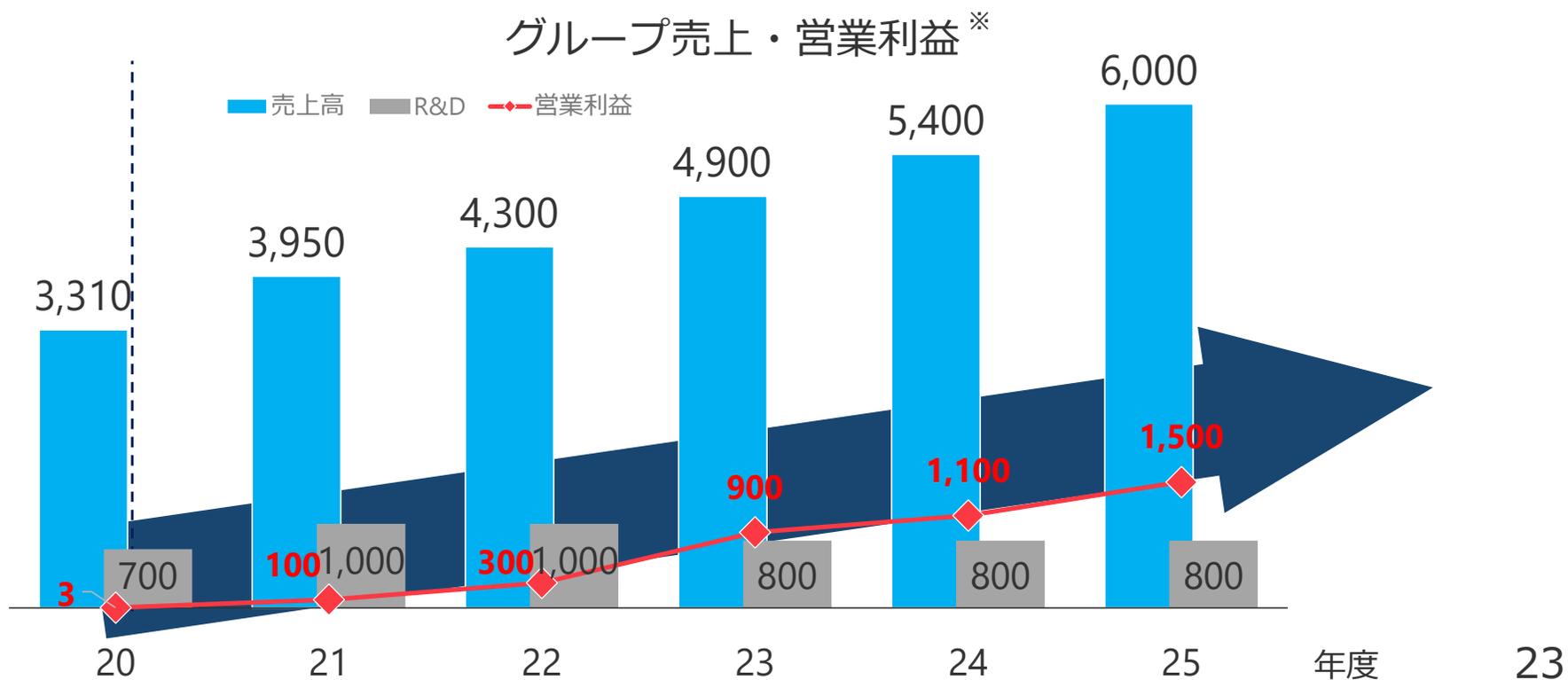


- VMA領域、および、自動運転支援領域において、R&Dを加速化することを目的としたM&Aは常に模索していく。
 - 日本にとどまらず、グローバルを対象に
 - 財務的体力上可能な限り、対象会社の規模・件数に上限を設けず

業績目標

- 25年度にはグループ営業利益1,500百万円を目指す
(除、新規M&Aに係る償却費)

(百万円)



※ 今後実施するM&Aに係るのれん等の償却費を除く